

■藤原真楯 公卿。有能で、聖武天皇から寵遇され、従兄の仲麻呂に妬まれるも巧みにかわして、仕事を全うした。
ふじわらのまたて
元正天皇即位 715＝ 美努王の女無(牟)漏女王を母に、_北家藤原房前の第三子に生まれる。

藤原不比等没 720＝ 5歳：

聖武天皇即位 724＝ 9歳：

長屋王の変・ 729＝14歳：_生来、度量弘深にして公輔の才があったという。

風土記完了・ 733＝18歳： 若くして歌を詠み、

真備玄昉帰国 735＝20歳：この前後数年の歌が「万葉集」に収められている。山上憶良とも親交があった。

藤原四卿没・ 737＝22歳：_初め皇太子阿倍内親王(のちの孝謙天皇)の春宮大進であったが、

藤原広嗣の乱 740＝25歳：正六位上から_従五位下に叙せられ、従五位上へ昇叙し、

国分寺建立詔 741＝26歳：右衛士督に任ぜられた。

壱田永世法・ 742＝27歳：

大仏造立の詔 743＝28歳：*皇太子阿倍内親王の五節奏舞に臨み、正五位上に越階昇叙されて式部大輔を兼任、安積親王が真楯の宅に
宴した時、大伴家持の作った歌1首が「万葉集」にみえる。この頃、左少弁でもあったらしい。

・ ・ ・ ・ ・ 744＝ 29歳：従四位下に叙せられ、

大仏鑄造始・ 747＝32歳：治部卿、

・ ・ ・ ・ ・ 748＝33歳：*参議に任ぜられた。

懐風藻・ ・ ・ 751＝36歳：

大仏開眼・ ・ 752＝37歳：摂津大夫に任ぜられたが、この年、左大臣橘諸兄の宅の肆宴において詠んだ歌、さらに新嘗祭の驛宴の時の
応詔歌が「万葉集」に載っている。時に右大弁であった。_その伝によると、官にあっては公廉にして慮私に
及ばず、聖武天皇の寵遇とくに厚く、詔して奉宣吐納に参ぜしめられ、明敏にして時に誉あり、そのため従
兄藤原仲麻呂は心にその能をねたんだので、それを知って病と称し、家居して書籍を翫んだという。

聖武天皇没・ 756＝41歳：

橘奈良麻呂乱 757＝42歳：従四位上から正四位下に叙せられ、

孝謙天皇讓位 758＝43歳：仲麻呂の官号改易に参加している。

光明皇后没・ 760＝45歳：_正四位上から従三位に昇叙され、大宰帥に任ぜられた。この頃、真楯の名を賜わり、渤海大使揚承慶帰国
の宴餞で大使をして称歎せしめたというのも大宰帥の時代である。

新羅征討計画 762＝47歳：中納言に昇進して信部(中務)卿を兼ねたが、

惠美押勝の乱 764＝49歳：*仲麻呂の乱のときには追討する側に立ち、正三位に叙せられ、

・ ・ ・ ・ ・ 765＝50歳：論功で勲二等を賜わった。

道鏡法王・ ・ 766＝51歳：*大納言に昇進して式部卿を兼ねたが、没した。